

めずらし 珍布峠ウォーキングコース

伊勢と大和、和歌山を結んだかつての“和歌山街道”。この旧街道沿いには宿場町の面影をとどめる町並みや石碑、道標などを見ることができます。珍布峠ウォーキングコースは、その史跡を巡る自然豊かな散策コースです。アップダウンが少なく、飯高駅から徒歩で約2時間、7.5kmほどの行程です。

ロングコース 7.5km 2時間弱
 ショートコース 4.5km 1時間強
 ※ 距離や時間は目安です

- ロングコース 
- ショートコース 
- コース案内板 
- 名所・旧跡 
- 観光看板 
- 三重交通バス停 

和歌山街道

～『国分け伝説』の史跡を巡る～

和歌山街道は、その名の通り松阪と和歌山を結ぶ街道で、主に三重県側のルートのことを指します。この街道は江戸時代、紀州藩主の参勤交代の道として、また伊勢神宮への参詣道として多くの人が行き交いました。

その和歌山街道の中間辺りに位置するのが『宮前宿』であり、現在は空き家や更地が目立ちますが、江戸時代には本陣が置かれ、国道166号ができる昭和の時代までは旅館や商店が建ち並ぶこの地域のメインストリートでした。

宮前宿から徒歩で30分足らずの場所にあるのが『珍布(めずらし)峠』です。珍布峠は、天照大神(あまてらすおおみかみ)と天児屋根命(あまのこやねのみこと)が出会ったとされる場所で、ここで伊勢と大和の国境を決めたとされます。現在、峠は大岩をくり抜いた切り通しとなっており、ルートはその素掘りの大岩の間を抜けています。

珍布峠の大岩を西側に抜けたところから櫛田川に向かって細い道がありますが、その道を下りていくと目の前の川に『礫(つぶて)石』が見えます。礫石は、珍布峠と併せてこの地に伝わる『国分け伝説』の史跡となっています。

かつてこの街道は幹線道路でしたが、対岸を走る国道166号ができてから人や車の流れが国道へと変化し、周辺の住民も利用することが少なくなって、いつの間にか廃道寸前の状態になっていました。

数年前から地元住民を中心とした整備が行われ、荒れ果てた道を舗装したり、古くなった案内板を付け替えたり、新しくルート看板を設置したり、植樹をしたりと地道な活動の結果、かつてのような趣きよみがえりました。

人や車の交通量は古のものとは比較になりませんが、往時を偲び、旅人が行き来した様子を思い浮かべながらこの街道を歩いてみてはいかがでしょうか。



スタート&ゴール 道の駅 飯高駅
 天然温泉を備える道の駅。レストランや早朝喫茶、販売所、そば打ち体験、公園などの施設もある。
 Tel 0598-46-1111